

いま、伝えたい。

# おかやま親子応援 プロジェクトレポート

2020年5月～6月に実施したクラウドファンディングの  
結果報告とこれからのお話



発行人



## おかやま親子応援 プロジェクト

—— 呼びかけ人 ——

公益財団法人 YMCA セとうち  
代表理事 太田 直宏

NPO法人岡山市子どもセンター  
代表理事 美咲 美佐子

NPO法人岡山NPOセンター  
代表理事 石原 達也

サンサポートおかやま  
代表 ボウズ 满恵

NPO法人だっぴ  
代表理事 森分 志学

NPO法人チャリティーサンタ  
理事 河津 泉

—— 編集メンバー ——

公益財団法人 YMCA セとうち  
有安 紀

NPO法人岡山市子どもセンター  
久川 春菜

NPO法人岡山NPOセンター  
北内 はるか

—— SpecialThanks ——

編集アドバイザー  
前川 達彦  
(楽天株式会社)

イラスト  
ゆっキー

写真  
有安 紀

デザイナー  
杉原 謙章

お問合せ先

おかやま親子支援プロジェクト事務局  
特定非営利活動法人岡山NPOセンター内

〒700-0822 岡山市北区表町1丁目4-64上之町ビル3階  
TEL:086-224-0995 FAX:086-224-0997  
E-mail:okayama.oyako@gmail.com

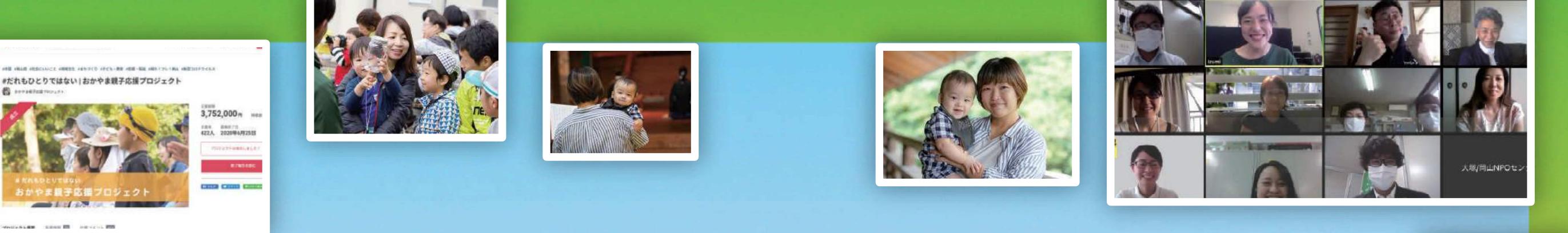


ウェブサイト  
okayama.oyako.com



Facebook  
@okayama.oyako

noteでも発信中！ おかやま親子応援プロジェクト



# #だれもひとり ではない



「おかやま親子応援プロジェクト」が目指したこと。

それは、「だれもひとり ではない」

岡山で暮らすすべてのご家庭に

そのメッセージを届けることでした。

クラウドファンディングにご参加いただいた皆さまのご支援は、

資金面だけではなく、

私たちが活動を続ける心の支えになりました。

心から感謝を申し上げます。

まだ道半ばではありますが、

私たちの活動の「これまで」と「これから」を

1冊にまとめました。

皆さまのおかげでこの街に

多くの笑顔が生まれたことを

少しでも感じていただけたらと思います。



# おかやま親子応援プロジェクト クラウドファンディング実施結果

実施期間

5月  
13~25日

6月

支援  
人数

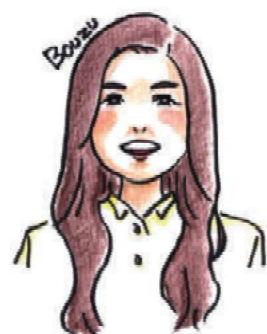
422人

支援  
総額

3,752,000円

新  
型コロナウィルスの感染  
拡大に伴い、子どもの状況はどうなるのだろうという思いから、「だれもひとりではない、心の手でつながり続けよう!」と始まったおかやま親子応援プロジェクト。多くの方々のご寄付により、さまざまなお動き、多様なプログラムを届けることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。今後もすべての子どもたちが豊かな子ども時代を過ごすことができる社会を皆さまと作っていきたいと思います。

サンサポートおかやま



ボウズ 満恵

たくさんの方のご支援ご協力、そして応援を頂き本当にありがとうございました。このプロジェクトは、コロナ禍でも日々成長し続ける子どもたちの「育ちの時間」を守る場」のひとつとなっています。そして子育て家庭のサポートの場にもなっています。たくさんの親子の笑顔を作りだすことができています。心より感謝いたします。

当法人でも、今までできなかったひとり親家庭に対する鑑賞会へのご招待が、この度、大型人形劇「エルマーのぼうけん」で実施することができました。感謝の気持ちでいっぱいです。今後もすべての子どもたちが豊かな子ども時代を過ごすことができる社会を皆さまと一緒に作っていきたいと思います。



みさき 美咲 美佐子

NPO法人  
岡山市子どもセンター

一 人でも多くの子ども、親、家庭とつながり、助け合い、誰一人取り残さずに、世界的な危機を乗り越えることを目指し、立ち上がったおかやま親子応援プロジェクト。皆さまが想いを寄せてくださりお力添えをくださったことが大きな励み、大きな力となりました。



いしはら たつや  
石原 達也

NPO法人  
岡山NPOセンター

この取り組みを支えてください、ありがとうございました。この間、アメーバのように各組織が繋がり、増えながらそれが現場での調査と試行を重ねて、コロナの状況に対応してきました。

体験、学習、場、そして情報の不足。これを補う取り組みが民間連携、そして行政との協働で進んでいます。「毎月毎月、生活が苦しくて子どもたちに不憫な思いをさせてる」という生活の不足にも応えようとはじめました、北長瀬コミニティフリッジ（※）では100以上の困難を抱えるひとり親世帯の方に食料品等を販売しています。まだまだではあります、積み上げてまいります。

## 呼びかけ人 メッセージ

この度は、おかやま親子応援プロジェクトにご寄付いた誠にありがとうございました。皆さんの寄付によって、（大きさかもしれないが）子育てを各家庭が個別で頑張るだけでなく、社会全体で支える世界に少し近づいたのではないかと思っています。例えば私たちの活動で言えば、子どもに関する他者として、親と先生という存在に加えて、大学生のお兄さん・お姉さんが加わり、子どもの社会関係資本が少し豊かになりました。そのためつながりの豊さが、子どもたちに良い影響を与え始めていて、そのきっかけを作つてくださったのが、この度のご寄付だと考えています。チャレンジは続きますが、引き続きの応援、どうぞよろしくお願ひいたします。



おおた ただひろ  
太田 直宏

公益財団法人  
YMCAせとうち

皆さまの寄付により、さまざまなプロジェクトが生まれ、情報配信事業を通じ、多くの家庭に必要なものとして届けることができます。あらためて家庭の皆さまに寄り添っていただき、感謝いたします。

この度は、おかやま親子応援プロジェクトにご寄付いた誠にありがとうございました。皆さんは自立で生きるのだと学びました。互いが助け合うこのプロジェクトへのご協力に心より感謝するとともに、困った時にはどうぞ「助けて」とお申し出下さい。



もりわけ 森志学

NPO法人だっぴ

米

津玄師さんのCD、ストレ

イシープ。タイトルは新約聖書の迷える羊のお話の引用で、ジャケットには羊のマスクを被った人が描かれています。楽曲の中に、こんなフレーズがあります。「列なし

NPO法人  
チャリティーサンタ

今

回の新型コロナウイルスの感染拡大を受け、ひとり親世帯や従来からしんどさを感じているご家庭はより厳しい状態におかれています。今回、困窮世帯の多くは「頼れる人がいない」と感じていることもわかりました。



かわづ いずみ  
河津 泉

多くの方が孤立感、しんどさを感じているなかで「誰かが自分を想ってくれている」と実感できることは、心の支えになると信じています。

# おかやま親子応援 プロジェクトのこれまで

## ●プロジェクトの動き

## ■世間の動き

- 4月16日：「緊急事態宣言」全国に拡大 13都道府県は「特定警戒都道府県」に
- 4月20日：岡山県、県南部の県立の高等学校や特別支援学校等の臨時休業の実施（4月20日～5月6日）  
岡山県、県立学校の一斉臨時休業の実施（4月20日～5月31日）

## ●4月21日 おかやま親子応援 プロジェクト発足



■ 5月4日：政府「緊急事態宣言」5月31日まで延長

- 5月6日：プロジェクトの呼びかけ人会議開催。プロジェクトの方向性、実施体制について検討
- 5月9日：「妊婦さんに妊娠中でも安心できるマスクを届けたい@ハレハハプロジェクト」を通じ、物資の募集を開始（11月11日郵送にてお届け）
- 5月13日：「移住者と地元のパイプとして交流の場を作ってきた親子に必要な応援を @ おいでんせえ岡山」を通じ、物資の募集を開始同日、クラウドファンディング「晴れ！フレ！岡山」を通じた支援金の募集を開始

■ 5月14日：政府、緊急事態宣言を  
39県で解除。8都道府県は継続

- 5月17日：「ハッシュタグ岡山」にて、高校生・大学生向けにコワーキングスペース、および Wi-Fi の無料提供を通じた学習支援を開始
- 5月19日：NPO法人だっぴが中心となり、オンラインでの学習支援「まなびば」をプレ開催  
11月までに集合型「まなびば」を計7回、一対一の「まなびば 1on1」を134回開催  
大学生サポーター14名が参加

- 5月27日：「マスクを必要としている子育て親子に、支援団体を通じて政府配布の白マスクを届けたい!@cococara okayama &くらしのたね」を通じ、物資の募集を開始（11月21日に岡山市母子寡婦福祉連合会へ寄贈）

- 6月9日：プロジェクト参加組織による情報交換会を開催

- 6月12日：コロナ禍で活動の自粛が求められる中、子どもたちの体験活動の必要性をあらためて発信する  
**「育ちを止めるな！宣言」を発表**



## ●プロジェクトの動き

## ■世間の動き

- 6月25日：クラウドファンディング終了  
目標金額3,000,000円に対し  
422人のみなさまから  
**3,752,000円のご支援を  
いただく**



■ 6月28日：世界の感染者 1000 万人超える

- 7月9日：楽天社員をゲストとして招き、中学生～高校生を対象としたオンライン異年齢交流「オンラインで会おう」を開催
- 7月17日：岡山市および岡山市社会福祉協議会との協働で「おかやま親子応援メール」の配信開始  
就学援助や児童扶養手当受給世帯を中心とした1827件を対象に、11月末までに22件のメールを配信



■ 7月18日：世界の死者 60 万人超える岡山では、7月中旬から8月初めにかけて岡山市中心部のキャバクラなど3店舗でクラスター（感染者集団）が相次ぎ、第2波のピークとみられる

- 7月28日：国内の死者 1,000 人超える（クルーズ船除く）
- 7月29日：国内の1日の感染者 1,000 人超
- 8月11日：世界の感染者 2000 万人を超える
- 10月25日：岡山県内の感染確認が再陽性を除いて 200 名を超える

- 10月5日：「公衆衛生学の専門家から学ぶ『コロナ対策ケーススタディ』」をプロジェクトの主催により開催

- 11月3日：NPO法人岡山市子どもセンターが主催する「エルマーのぼうけん」へ  
ひとり親家庭の親子を対象に観劇のご招待
- 11月20日：北長瀬エリアマネジメントが「コミュニティフリッジ」をスタート



## 【期間中の活動】

- NPO法人志塾フリースクール岡山により、コロナ禍でフリースクールへ来られない家庭へのアウトリーチ（訪問対応）を実施
- NPO法人東備子ども NPOセンターにより、無料の個別相談の拡充および個別学習支援を実施
- NPO法人あかねにより、ネット環境が整っていない家庭へタブレットを用いたオンライン学習支援を実施
- 一般社団法人医と食でつながる瀬戸大橋 LINE laborator により、コロナ禍におけるひとり親家庭等への支援物資を提供
- 岡山移住交流の会カモミールにより、移住された方と地域の方とが繋がり、楽しく過ごせるような交流会を開催するために必要な衛生用品や、そこで子どもたちが遊ぶために必要な遊び道具等を購入
- YMCAせとうちが主催する、小中学生を対象とした「プログラミング映像制作スクール」を実施

や期待に責任の重さを感じるとともに、多くの方々のご希望に沿うことができなかつたことは、今後の課題になりました

人形劇団ブークの「ご協力もあり、当初考えていたステージ数を1から2ステージに増やし、座席を一席ずつ空ける、検温や手指消毒をはじめ、会場の消毒など新型コロナウイルス感染予防対策を徹底して臨みました。当時は、2ステージとも500名を超える参加があり、親子で舞台に釘付けになり楽しんでいる様子に主催者として大きな感動を覚えました。

参加された方から、少年エルマーの問題を解決していく知恵と勇気、自分の夢に向かって諦めない姿、そして親を信じる気持ちなど、「感動した」「見て良かった」と、多くのメッセージやエピソードが届きました。

コロナ禍で子どもの体験の機会が奪われ、より格差が生まれ、子どもの育つ環境が厳しさを増す



▲参加者がアンケートに描いてくれた絵

## 参加者の声

なかなか子どもにこのような劇を見せてやることができないので大変うれしかったです。

**親子で楽しめました。**ソーシャルディスタンスでゆったり見ることができてとてもよかったです。

毎日、仕事と家事に追われ、子どもと遊ぶ時間がとれない中、子どもと一緒にみる劇はとても貴重で思い出になりました。席の近くの方々は「同じシングルマザーなのかな」など思いながら話しかけることもできず終わってしまいました。シングルマザーとその子どもたち同士も交流できる機会があると嬉しいです。本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

今回ひとり親家庭の招待チケットを送っていただき、鑑賞できる日を待ちにしていました。

**息子は図書館で借りてきた「エルマーのぼうけん」を何度も読み、実際に人形劇を鑑賞できて感激していました。**

鑑賞後の帰り、自分の本にどうしてもしたいとエルマーシリーズ3冊の本を購入しました。

コロナで大変なことばかりだったと思いますが、素晴らしい人形劇を子どもたちに観せていただき本当にありがとうございました。

エルマーが強い信念を持って困難に立ち向かっていく姿にとても心を打たれました。息子もこれから起こるであろうさまざまな困難や試練にめげずに立ち向かっていってくれたらいいなと思いました。動物たちやダンプやトラック達の悪者だけど憎めない愛らしき存在にはっこりと笑顔になりました。

**息子はずっと笑いながら引きつけられて夢中で観ていました。**

「エルマーのぼうけん」の招待が決まり、その時からすごく楽しみにしていたお母さんからのメールです。

すごく面白くて楽しかったです。観て帰って、昼食のあと、**息子が自転車を練習すると初めて乗れました。**三半規管に病気があってバランスを取るのが難しく、保育園の時から練習していたのに乗れないから半分諦めていたのですが、乗れたので嬉しかったです！



ひとりでも多くの子どもたち、親子に舞台芸術鑑賞の機会を届けたい  
**大型人形劇「エルマーのぼうけん」**  
**ひとり親世帯の親子74世帯をご招待**

当法人は、ひとりでも多くの子どもたち、親子に舞台芸術に触れる機会を提供したいと児童養護施設の子どもたち、2011年の東北大震災による広域避難親子を鑑賞会に招待していました。また、ひとり親世帯の親子にも届けるためのしくみをつくりたいとずっと模索していました。この度、9月15日の夕方に親子応援メールでご案内を配信していただきました。なんと翌朝には募集定員100名をはるかに超える申し込みがありました。子どもたちの豊かな感性や想像力を育む舞台芸術鑑賞へのニーズの高さ

かやま親子応援プロジェクトのクラウドファンディングに多くの皆さま方からご寄付をいただきました。おかげで、11月3日（火・祝）NPO法人岡山市子どもセンター設立20周年記念鑑賞会「エルマーのぼうけん」へのひとり親世帯の親子74世帯184名のご招待が実現しました。

お

かやま親子応援プロジェクトのクラウドファンディングに多くの皆さま方からご寄付をいただきました。おかげ

## 2 YMCAせとうち

活動報告



“さまざまな活動をオンライン化＆再開！  
仲間とともに知恵をめぐらせ、育ちを支援”

- コ** ロナインパクトを受けた4月月下旬より、急きオンラインのプログラム開発に取り組み、まずは「野外活動友の会」の定例会のオンライン化を行いました。映像と音声の配信プロでのライブハウス「トルネード（現：OMS）」とのコラボのおかげで、結果は大成功。ここからトントン拍子でさまざまな活動のオンライン化を実現し、今日に至っています。
- 1 野外活動友の会**  
メンバー86名、リーダー14名が参加。まだ目新しさがあり、NHKテレビの取材が行われました。
- 2 カレーコンテスト＆おはなし会**  
岡山の方に加えて他県に転出した方の飛び入り参加もあり、70名でリアル「どこでもドア」のようなオンラインのメリットを実感しました。
- 3 朝のつどい**  
連休から5月末まで毎日ラジオ体操を行い、のべ1,000名以上
- GW中のオンライン活動**

が参加。「生活リズムが整う」と大好評でした。

### 4 こどもの日・本物体験プレゼント

プロの指導の下、3つの「工作」ワークショップを実施。45組の家族にクラフト用品を事前に送付し、各家庭で楽しい子どもの日を過ごしていただきました。

### 5 おかげま親子応援プロジェクト

立ち上げ時のオンライン会合に参画させていただき、仲間に加えていただきました。「ここから多くのご支援をいただき、活動を加速できました、

### 6 オンライントークライブ

10回の連続講演会を経て、「ニューノーマルが生み出す『不信と分断』に与しないために、フィジカルディスタンス（肉体的距離）は広げつつも『ソーシャルディスタンス（社会的支援の距離）』は縮める必要がある」という気づきを得ました。

### 活動の再開

夏休み以降、一時は今年度の

全てのキャンプの中止をも検討しました。しかし、世間が皆自粛するような状況を目の辺りにして子どもたちの育ちを止めてはいけないと確信するに至りました。そこで、日帰りプログラミングの実施数を大幅に増やし、高学年も参加可能な特徴づけも工夫しました。

新たな試みとしてプログラミングスクールも実施し、映像製作やウェブデザインなどにも取り組みました。プロジェクトからの寄付のおかげで経済的困難状態にあるご家族のご招待も多数実現し、充実の内容となりました。

バスカルは、「人間は考える葦である」と述べ、人生の目的はしあわせになることであると看破しています。私たちもこれに倣います。コロナだから出来ない決めつけず、何とか知恵をめぐらし、育ちを支援します。

## 参加者の声

内容がよく考えられている。  
リーダーから  
学ぶことが多い。

コロナ禍でも  
出来ることをやっていくという  
YMCAの姿勢に  
親として頭が下がる思いです。

憧れのリーダーのもと、新しい仲間もでき、  
ひとつひとつの体験が  
子どもをとても成長させてくれたと  
思います。  
グループリーダーがよく話を聞いてくださったり、困った時にサポートしてくださったようす。  
ありがとうございました。

尊敬できる、早く会いたいと思える  
リーダーたちとの出会いは、  
本人にとっても、  
将来の自分のお手本に  
なるに違いないと思います。

小さく弱い葦ながら、この状況  
下で考える葦であり続けたいと  
願っています。



## NPO法人 だつぴ

ご支援を基に実施した各団体の活動報告！

「オ」オンラインまなびばは、学校の学習スピードにはついていくのが難しい小中学生が「できた!」「分かった!」の体験を、その子のペースで実現することを目指します。



コロナ禍の休校によるカリキュラムの遅れを取り戻す必要がある学校において、子どもにも保護者にも「その学習スピードに全ての子どもがついていくのだろうか」という不安がありました。学習塾などで学習の遅れが補完できればよいのですが、子ども全員が学習塾に通えるわけではありません。本プロジェクトでは、こうした学習の遅れに不安を抱えるご家庭を支援すべく、大学生が子どもたちの勉強のサポートなどをオンラインで実施しています。

「オンラインまなびば1on1」では、週1回30分～1時間程度、中小学生が大学生と1対1で勉強を頑張っています。自分の家からオンラインで大学非認知能力だけでなく、実際に成績が上がっている事例も生まれてきていて、良い関係性の中で学習ができるようになります。子どもと大学生は勉強以外の話もしたりしていくことで、新しい関係性を整えることができます。また、その派生として、こうしたよりよい学習環境と勉強以外のことをお話しする「オンラインで話そう」というスピノオフイベントも実施しました。この回には、楽天株式会社の社員さんがボランティアとして関わってくれたりしました。

生とつながって行う学習は、親でも学校の先生でもない「ナメの関係」という、子どもたちの日常の中にはあまりない新しいつながりです。そういうことで、自尊感情の向上にもつながっているように思います。

## 受益者の声

## 本人のペースで学習を進めて

いただける点がとてもありがたいと思います！特に我が子の場合は通常の授業だけではついていけず困っているので、個別に丁寧に教えて頂けることにより、少しづつ分かる問題が増え自信に繋がっているようです。

どこにいてもネット環境さえあれば学習出来るメリットは我が家のようなへき地に住んでいる家庭はとても助かります。

教えて下さっている学生さんと楽しそうに笑いながら勉強していく、こちらも穏やかな気持ちになります。塾とも学校ともお家とも違うこの形が、ずっと継続されるととても嬉しいです。

NPO法人  
チャリティ  
サンタ

## 受益者の声

## 毎回多彩な内容で、メールだけでも楽しめていただいております。

コロナと酷暑で命の危機を感じたり不安な気持ちが渦巻くご時世ですが、少しでも子どもに楽しい思いをさせてあげたいと思います。本当にありがとうございます！

そうであるという回答となりました。二~三の高かつた生活支援や子どもの体験活動、そして届きにくい行政の支援策など、さまざまなお情報を毎週配信しています。

そのクラウドファンディングを通じて生まれた企画も多く配信しています。このクラウドファンディングのために。今後もひとつひとつのご家庭にしっかりと向き合つた情報をお届けしていきます。

新型コロナの影響を受けた困りごとを抱える家庭はとても多く、また困りごとがしばらく持続します。ご家庭のアンケートをみると、おかやま親子応援プロジェクトのひとつの事業として、おかやま親子応援メールの配信を開始しました。現在、ひとり親世帯やコロナの影響でしんどさを感じているご家庭に情報をお届けしています。

NPO法人  
おかやま  
サンサポート

## 受益者の声

不安の中での妊娠期間でしたがクラウドファンディングでたくさんの方が応援してくださいましたことを知りとてもうれしかったです。

つわり中の息苦しさを心地よさに替えてくれるマスクのご支援ありがとうございました！

妊娠さん同士で集うことができず様子がわからない中、みなさんの気持ちが支えになりました。そして無事に元気な赤ちゃんを出産することができました。ありがとうございました。

020年春、コロナ禍で緊急事態宣言が発令される中、新しい命を宿ったお母さんに出会いました。本来はおめでたい出来事ですが、お母さんは世の中の雰囲気を見ていると「妊娠している」と周囲に伝えることが気が引けると言いました。そんな中で始まるつわり。外出にはマスクの着用が必須ですが、息苦しさやつわりによりにおいに敏感になっていることでマスクが苦痛との声がありました。

そこで妊娠さんでも心地よく着用できるマスクを、妊娠中や乳幼児を抱えるお母さん100人に届けることにしました。マスクに健康祈願のご祈祷もし、郵送しました。受け取ったお母さんからは、「肌ざわりもよく、息苦しさもにおいもない。このマスクのおかげで検診などの外出時も快適でした。そして応援してくださる方がいることでコロナ禍の不安な気持ちをやわらげ、勇気をもらいました。」との声がありました。マスクというモノの支援だけでなく、そこに皆さまからの温かく優しい気持ちの支援も受益者の方にお渡しすることができました。

